

植物用肥料を用いて栽培した作物の官能および物性評価



応用生物科学部栄養科学科 鈴野弘子 教授
食品科学関連
✉suzuno@nodai.ac.jp

キーワード

- ・官能評価
- ・食品物性
- ・食味
- ・食感



研究の背景と目的

植物用肥料は、作物の成長と品質に影響を与える。作物と環境にやさしいとして開発された肥料で育てた作物は、成長を促進し、経験的に食味が良好であると言われている。本研究は、人の五感で対象物を評価する官能評価手法を用いて、これらの肥料で栽培した農作物（果物・野菜類）の食味、食感を明らかにした。

展開可能性（他領域・社会にどのようなインパクトを与えるか）

官能評価は、伝統的に受入検査と出荷検査で使用されている。これらの検査は、理化学機器による検査が基本であるが、これでは対応できない場面が多々あり、パネル（人の検査員）に頼らざるを得ない。例えば「目に見えないブランドをどのように構成して、次の製品開発にどのように反映させていけばよいか」を分析するブランドマネジメントでは、官能評価を正しい手法で実施し、データを解析することによって、「消費者がブランドをどのように感じているか」を明らかにすることが可能である。また、消費者のニーズの発掘にも有効であり、製品開発のコンセプトが明らかになる。

シーズの特徴

- 特徴1 人が感じた食味・食感と機器分析による分析値の関係が明らかになる
特徴2 消費者のニーズに対応した製品の特長をアピールできる

PR・マッチングに関する要望

関連情報 (URL)
研究業績・研究室 (URL)